



佛教大学 仙教文化研究所報

第 6 号

昭和63年 6月30日
発行

好きこそ物の上手なれ

人間の性格、能力は実に千差万別であって、人みなそれぞれ異なりがあります。食物に対する嗜好と同じように、仕事についても得手不得手があります。自己の性格に合うたもの、好きなこと、得手なものには他人からとやかくいわれなくとも楽しく仕事を果たすことができます。そこには余り心労は感じません。しかし不得手なことになりますと相当な心労を覚悟せねばなりません。まして厭なこととなればなおさらです。

私の友人に書道の大変好きなものがあります。いつも筆で美しい文字を書いた手紙を頂きます。自分の居間には大小いろいろな紙に草書体、行書体の書を並べています。時々訪問するとその出来具合について一席の話に時間をとられます。私には書の出来、不出来はわかりませんが、なかなかの達筆です。立派な文字を書きます。そればかりでなく名筆家の写字および拓本を掛けて、つねにこれを見て筆法を研究しているようです。これは筆をもって字を書くことが好きだから出来ることでしょう。筆をもつことが不得手なものには、出来ることはありません。

ある会合で一人の学生からたずねられたことです。「先生はいつ頃から大学の先生になろうとされましたか」と。余りの突飛な質問で、すぐ返答するのに困りました。が、さて永い教員生活を振り返ってみますと、若い頃から大学の先生になろうと思つて勉強したことはありません。ただ本を読むのが好きであり、理論的な話を聞き、文字を書くのが好きであつたということです。子供の頃の家庭生活は決して裕福ではありません。

次 目

- ・好きこそ物の上手なれ 坪井俊映…1
- ・新旧両昆婆沙論の一相違点 樹田善夫…2
- ・『釈浄土群疑論探要記』の書誌学的考察 村上真瑞…4
- ・六朝時代における聖と仏 沈約につ 石橋成康…6
- ・慧思における懺悔滅罪について 安達善教…8
- ・朝鮮通信使招聘における彦根藩仏教寺院の役割 『女人往生伝』覚書 笹田教彰…14
- ・昭和六十年年度事業報告 編集後記 Zettipakara 源泉資料考(2) 神田隆司…22
- ・謝靈運『仏影銘』訳注稿(上) 鶴飼光昌…10
- ・竹内真道…15

坪 井 俊 映

ません。小学校の頃、『少年倶楽部』とかいう月刊雑誌があつて、友達仲間のあいだでよく読まれていました。学校へ持って来るものもありました。しかし私の家庭では、どのような事情があつたかわかりませんが、この月刊雑誌は買ってもらえませんでした。友達から何日までも目を切つて借りて読んだことがしばしばありました。この読書好きの癖は今でも無くなつていません。本を読むことが好きであつたということが、今日の私をつくりあげたことの一つでないかと思っています。

文科系の学問はいろいろ沢山の書物に目を通さねばなりません。難解なもの、比較的平易なもの千差万別ありますが、難解なものに對するときは、その解明に意欲の涌くのを覚えます。「下手の横好き」といつて笑われるかもしれませんが、しかし研究室にて二・三の有志と古典の輪読をしている時は楽しい一刻です。同じ書物であっても何度も読み返し読み返ししていると、そのたびに異なつたものを味あうことができます。またいろいろな疑問が付きつきと起つて来ます。

書物の読み方に「文」「義」「意」の三のあることを古人はいわれました。何度も読み返して作者の本意をとらえることが大切であるということでしょう。まして仏教經典や祖釈の理解には、なおさら文意義の言葉を忘れてはならないと思います。学問研究を志す人には読書好きということが、その基本でないかということは、自分独りのたわごとではないでしょうか。